

# 危険物運搬容器について

横須賀市消防局

危険物を安全に運搬するために、危険物を入れる容器の基準や、積載方法などが消防法で決められています。

## 1. 運搬容器の基準

危険物の運搬容器は、容器に入れる危険物の危険性に応じて、材質や容量などが消防法で定められています。また、容器の外面に危険物の品名、数量、注意事項などを表示するとともに、落下試験や気密試験などの試験にも合格している必要があります。

これらの基準に適合している容器のほとんどには、以下のような表示がありますので、容器が消防法に適合しているか判断する目安にしましょう。



【危険物保安技術協会の試験確認済証】



【 UNマーク 】

（危険物船舶運送及び貯蔵規則適合品）

## 2. 車両等への積載方法

運搬容器は、多少のトラブルが発生しても事故につながらないように、以下のことに気をつけて適切な方法で積載しましょう。

運搬容器の収納口を上に向けて、しっかりと密栓しましょう。

ノズル等を付けたままでの運搬は禁止です！

容器が落下、転倒しないようにロープ等で車体に固定しましょう。



### 3. ガソリンの正しい貯蔵・取扱い方法

平成 25 年 8 月、死者 3 名、重軽傷者 56 名を出すという大惨事となった京都府福知山の花火大会会場で発生した爆発事故は、ガソリンの運搬容器の不適切な取扱いが事故発生の原因とされています。同様の悲惨な事故を起こさないために、ガソリンの適切な保管方法を心がけましょう。

#### (1) ガソリンの保管容器

ガソリンに静電気が蓄積しないよう、金属製の容器を使用しましょう。

灯油用のポリエチレン缶でガソリンを保管することはできません。



ガソリンが貯蔵できる容器の例  
(金属製容器であることが必要)



ガソリンの貯蔵が禁止されている容器の例  
(樹脂製容器は火災危険性が高い)

#### (2) ガソリンの貯蔵・取扱い時の注意事項

- ① 容器は換気や風通しのよい場所で、かつ、直射日光等による熱影響の少ない位置に保管し、容器は必ず密栓しておきましょう。
- ② タンクキャップを一気に外すと、内圧でガソリンが噴出する恐れがあり大変危険です
- ③ 必ず携行缶(容器)のエア調整ネジを緩め、缶内の圧力を下げてからタンクキャップを取り外しましょう。
- ④ ガソリンを発電機等に補給する場合には、必ずエンジンを停止しましょう。

蓋を開ける前に必ずエア  
抜きを行いましょう。

